

自彊前進

題字 西村直子

NO. 29 令和5年10月25日(水)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 研究主任 田中 健太

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
(校歌3番の文言から)

教育研究発表会で期待すること

研究主任 田中 健太

令和5年度の教育研究発表会が、いよいよ明日と明後日に迫りました。今年度の研究会ポスターには、「生徒と教師が共に語り、共に走り、共に創る」と大きく載せました。これまでの学校は、「学校の授業や行事、活動の内容は、教師が決めるもの」という固定観念があり、生徒が声を上げることは少なかったように思います。そこで当校は、前出の言葉のように、生徒が学ぶ場である学校を、生徒の声を入れながら、教師と共同して創っていくことを目指しています。

そして「エージェンシー」という概念を視点にし、「世界を変える力をもった生徒を育成する教育課程」を目指しています。「エージェンシー」とは、「変化を起こすために、目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動をとる力」と言われています。まさに、これからの社会で必要となる力ではないでしょうか。

エージェンシーを育むため、当校では「附中の明日を語る会(通称:あすかた)」を実施し、生徒と教師が共に学校でしたいこと、希望を語り合いました。あすかたは一度だけではありません。行事の企画、授業開き、専門部の活動、様々な場面で開催し、生徒と教師が共に語り合っ、それらの活動のよりよい在り方を共有してきました。そして、生徒と教師が、共に活動を進め(共に走る、と表現しています)、共に創ってきました。

そして、活動を任せ、主体的に責任をもって進めた生徒は、成功も失敗も含めて振り返りながら、次々に活動をつなげていきました。自分たちでねらいを定め、プロセスを考えて進める授業。教師も含めた全校が一つになる体育祭。自分たちだけでなく外の世界に関わり、よりよくしようとする生徒会・専門部活動。附中生の素晴らしい姿でした。

今回はこれまでの研究会と違い、それらの活動を通して、エージェンシーを育んできた生徒たちの、生の姿、生の声を、参会者の皆様に届けます。研究会のオープニングは「生徒ポスターセッション」で、教育活動に自ら取り組み、頑張ってきたことを応募してくれた生徒たちが語ります。公開授業では、生徒と教師が共に創りあげてきた授業を、参会者に提案します。その後、「生徒が語る会」では、参会者が生徒全員の誰でも自由に質問し、授業や学んだことがどうであったかを、生徒自身が語ります。

このような研究会は、全国を探しても珍しいと自負しています。このような研究会を計画できたのは、この研究の価値を教師が強く感じていることと、私たちの、附属新潟中学校の生徒たちなら、全国の教育関係者の前で堂々と語ってくれる、という自信をもっているからです。当日は、全国の方々を前に附中生の姿が輝くことを、楽しみにしています。

